

登録コード	HM115100	開講年度	2026				
授業題目	皮膚免疫アレルギー学特論				担当教員	奥山 隆平 他	
英文授業名	Immunology and Allergology in Dermatology				副担当	木庭 幸子・小川 英作・枝光 智大・御子柴 飛鳥	
単位数	3	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		対象学生
講義室			授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加						
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力				皮膚疾患を通じて、皮膚での免疫学的しくみを理解する。		
(2)詳細/Detailed information	皮膚の構造および皮膚で生じる免疫反応について学ぶ。乾癬やアトピー性皮膚炎、膠原病、自己免疫性水疱症など、炎症性皮膚疾患における病態を、免疫の観点から理解する。皮膚腫瘍、皮膚感染症における免疫動態を理解する。						
(3)授業の概要/Overview of course	皮膚には、アトピー性皮膚炎や乾癬といった免疫やアレルギーをベースに生じる疾患が多数存在する。このような皮膚疾患がどのような機序で生じるのか現在の知見を紹介するとともに、診断や治療法の現状と今後の発展の方向性を解説する。						
(4)授業計画/Course plan	1回～5回 皮膚の構造、皮膚に存在する細胞の特徴を解説し、皮膚の恒常性の維持に果たす役割を解説する。さらに個々の構造や細胞の異常が、恒常性の破綻にどのように結びつくか最近の知見も含めて講義する。 6回～10回 アトピー性皮膚炎をはじめとしたアレルギー疾患は世界的に増加しており、その病態が遺伝学的側面、環境の側面の両方から解析が進められている。その病態を解説し、診断や治療の面で今後どのような展開が期待されるか説明する。 11回～15回 皮膚で炎症が生じると、表皮細胞の角化や線維芽細胞のコラーゲン産生など様々な異常が生じる。その病態メカニズムに様々な細胞やサイトカインが関係していることが明らかになっている。病態に関する現在の知見を紹介し、診断や治療への応用を紹介する。						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	講義終了後に提出するレポートにより評価する。(i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。0						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	PCでのレポート作成、メールでの提出が可能な環境を準備すること。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時質問を受け付ける。						
(8)授業の形式/Course format	指導形式で行う。						